

# 1 はじめに

横浜市は、急激な都市化の進展に伴い、多くの緑が失われてきましたが、平成24年7月実施の「横浜の緑に関する市民意識調査」では、緑の増加や維持を求める声が多くなっており、緑の保全・再生に向け、様々な取組を進めています。

横浜京浜臨海部は、緑の環境づくりに企業、市民、行政が協働して取り組んできた結果、埋立地でありながら、工場等の敷地に100ha以上の緑地が広がり、河口や運河等水環境にも恵まれ、地域の重要な環境財産として大きく育っています。

京浜の森づくり事業は、次世代に「緑豊かなまち横浜」を継承していくため、都市の緑を拡充する新たな取組として、工場、事業所等の緑地を重要な自然環境財として位置づけ、公共の緑や水辺の自然などと有機的に結びつけることにより「京浜の森」を形成しています。

本書は、京浜の森づくり事業が10周年を迎えるにあたり、これまでの経緯や取組を分かりやすく解説し、企業緑地等の設計、維持管理、活用等を行っていただく際の参考となるよう作成したものです。

企業の皆さまには、本書を参考に「豊かな環境の産業拠点」を目指して、魅力ある緑地の創出にご協力をお願いします。

## 2 京浜の森づくり事業とは

### (1) 横浜京浜臨海部の範囲

横浜京浜臨海部は、鶴見区、神奈川区の臨海部を指し、面積は約1,600ha(水面を除く。)です。



#### 横浜京浜臨海部とは

日本経済の繁栄を支えてきた京浜臨海工業地帯の中核として、多くの工場等事業所が立地しています。

鶴見区・神奈川区  
の臨海部  
面積約 1,600ha

- 横浜京浜臨海部
- 生麦新子安地区
- 末広地区
- 鉄道・駅
- 駅から海への導線
- 首都高速
- 幹線道路



## (2) 「京浜の森」が目指す緑の姿

横浜京浜臨海部では、民間及び公共の緑をつくり育てるに当たり、次のような緑の目標像を設定しています。

1. 新たな産業拠点・研究開発拠点としての地域イメージを創出するため、緑豊かな地域景観をつくり育てます。
2. しっかりした緑化基盤の上に、健全で持続性のある緑地をつくり育てます。
3. 自然環境の創出・再生に努めます。
4. 企業・市民・行政の協働により緑をつくり育てる活動を進めます。
5. 就業者や市民が日常的に緑や生きものと触れ合い海辺を眺望できる環境をつくりまします。

## (3) 「協働」の考え方

横浜京浜臨海部では、「豊かな環境の産業拠点」として緑の環境づくりが課題となっています。

横浜市では、この地域に立地する多くの企業と市民、行政と一緒に知恵を出しあって、この課題に取り組んでいくことを「協働」と考えています。

横浜京浜臨海部の企業の緑地や市民に公開されている施設を、地域の重要な財産としてとらえ、公共の緑や水辺などとあわせて、企業、市民等と行政が協働して緑の拡充・活用を推進し、未来に引き継ぐ京浜の森づくりを提唱しています。

具体的には、次表に示すような、「緑化の目標」と事業所、市民、横浜市の「協働の方針」を設定して、緑化及び維持管理活動等を進めています。

京浜の森づくりの緑化の目標と協働の方針

緑化の目標	協働の方針	
① 良好な地域イメージの創出	・緑豊かな産業環境の創造	・産業拠点としてのイメージを創出するため、公・民の協働により地域の緑を拡充し、豊かな環境づくりを進めます。
	・公園・緑地の確保	・水際緑地などの横浜京浜臨海部(以下「地域」)の緑の拠点づくりをめざして、まとまりのある公共の緑を確保していきます。
	・公共施設の緑化推進	・街路樹、街庭とあわせて、沿道と水際の緑化を進めます。
	・通勤ルートの沿道緑化	・緑豊かな街並みをつくるため、うるおいと憩いを与えてくれる沿道緑化を進めます。
	・元気に働ける緑の就業環境づくり	・立地企業とその周辺環境の向上に資するため、積極的に緑の効用を活用して、事業所緑化の推進をはかります。
	・緑の地域資源の創出	・次世代に引き継げる環境財として土壌環境を養成し、持続性の高い緑地づくりをめざしていきます。
	・市民公開・環境教育の場としての活用	・市民利用が可能な緑地は、野外レクリエーションの場として利用するとともに、自然観察や環境学習、緑地の手入れを行うボランティア活動の場としての活用を進めます。

緑化の目標	協働の方針	
② 緑の確保・緑のつながりの形成	・緑の確保	・緑あふれる地域をつくり育て、将来に伝えていくため、公・民が力を合わせ、緑の総量を確保していきます。
	・緑の骨格とネットワークづくり	・緑の骨格となる、まとまりのある緑地と小規模な緑地をつなぎ、内陸部の緑ともつながるネットワークを形成します。
	・公・民が共有する緑の目標づくり	・横浜京浜臨海部における地区ごとの緑の目標を達成するため、公・民が協働して緑の拡充に取り組み、地区内の緑地保全・創出を進めます。
	・公・民、民・民の緑のつながり形成	・緑地条件の改善を図り、健全な緑地づくりを進めます。
	・緑地公開等の推進	・市民に公開する緑地は、安全で快適に利用できるよう施設の整備を行うとともに、工場等の安全に配慮した管理を行います。
	・協働緑化の推進	・地域にふさわしい樹木や区の花による緑化を企業・市民・行政の協働により進めます。
	・企業の緑地拡充に対する支援策の充実	・協働による緑の拡充を推進するため、企業に対する情報提供や多様な支援策を展開します。
③ 環境行動のアピール	・企業緑地の環境財としての拡充・活用の推進	・自然環境再生の可能性を広げ、生物多様性の育成、地球温暖化ガスの抑制、ヒートアイランド対策などの環境資源として活用を進めます。
	・企業の緑化活動、緑のリサイクル等の促進	・地域貢献としての企業緑地の育成を進め、地域の緑化活動を広げていきます。
	・環境に配慮した企業の環境行動のつながり形成	・地域の産業の歴史や企業が公開している施設、緑地の紹介など、ものづくりを介してつなげます。
	・緑地を介した環境行動や地域貢献のアピール	・公・民の協働による緑の拡充や市民協働による地域貢献・環境活動に関する情報発信を進めます。

#### (4) 横浜京浜臨海部の自然環境の可能性と期待

横浜京浜臨海部は、海岸埋立地のため、豊かな自然環境からは隔たりがあるように思えますが、鶴見川などの河川により郊外部のまとまった緑とつながっており、河口や運河等の水環境にも恵まれています。この地域の工場等には、合計して約 100ha 以上の緑地が確保されています。これは、横浜スタジアムの約 38 個分に相当し、自然資源及び社会資源としての機能発揮が期待されます。環境経営に積極的な企業では、ビオトープづくりや緑地の公開などに取り組んでいる企業もあり、個々の緑地の活用や事業所の環境活動の推進とともに、他の事業所や市民、行政など、さまざまな主体が協働して、人と緑と水辺のつながりを育てていく活動が、横浜京浜臨海部で進められています。

一方で、ほとんどの水際が企業の所有あるいは占有地であるため、市民が徒歩や自転車、バスなどで訪れた場合も、運河や横浜港、ベイブリッジ、つばさ橋などを望める個所は限られ、海と日常的に触れ合える暮らしを取り戻す工夫が、都心部の沿岸域全体に求められています。

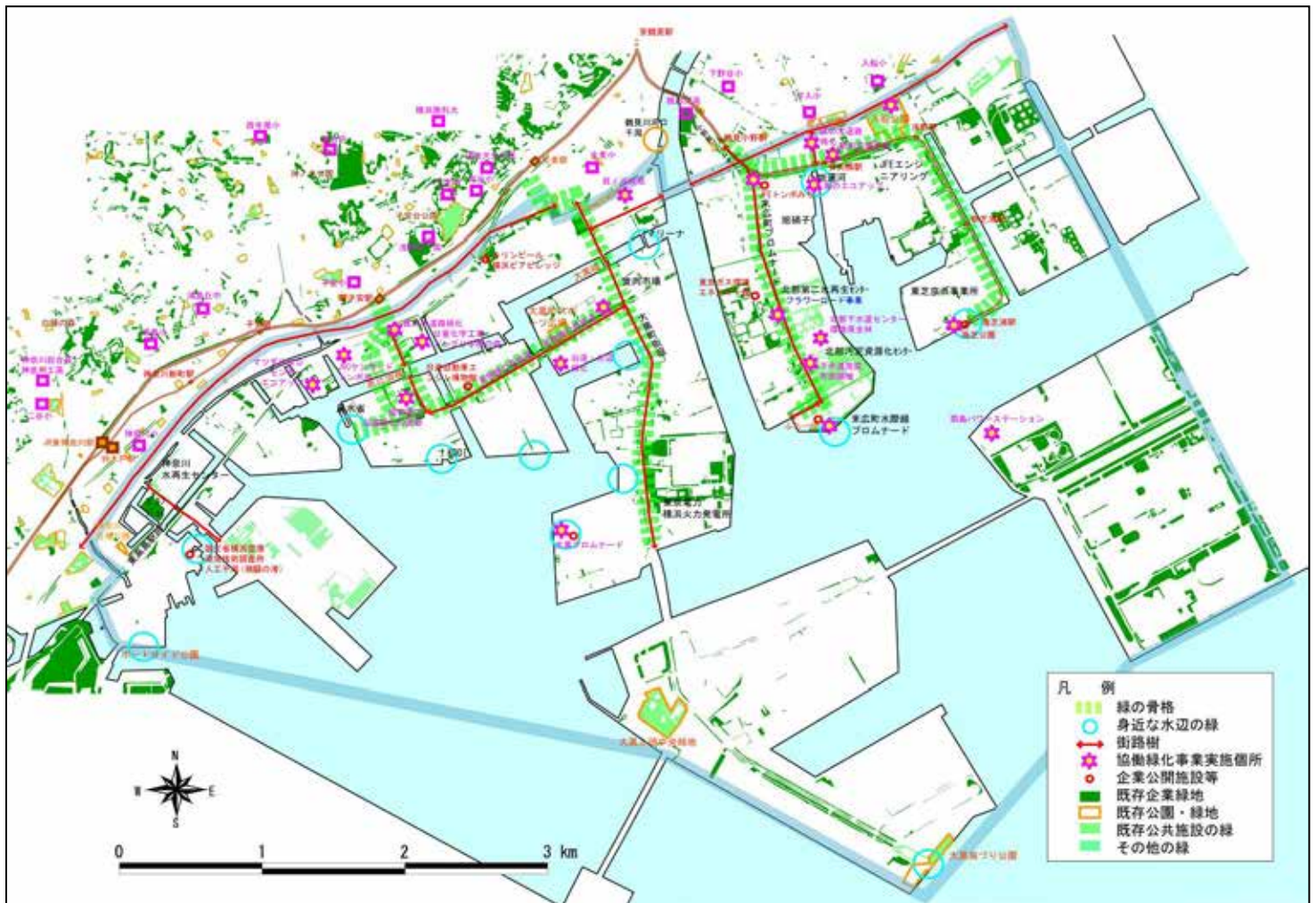




	産卵に水草・浮遊物があるほうがよい	開放的な水域に産卵	深い/大きい水域に産卵	羽化水域近くで成熟	羽化水域から離れて成熟
マルタンヤンマ	●(陸水)				
ギンヤンマ	●				
ハラビロトンボ	●			●草地	
シオカラトンボ	●				●空地・草地
オオシオカラトンボ	●			●林縁	
ショウジョウトンボ	●				●草地・林縁
ナツアカネ	●(陸水)	●			●水立
アキアカネ	●			●草地・水立	
マイコアカネ	●(陸水)			●林縁・薄暗い草地	
リスアカネ	(陸物性化傾向)				●水立
ノシメトンボ	●(陸水)	●			●林
コマシメトンボ	●	●			●林
ネキトンボ	●	●	●		●林
コシアケトンボ	(浮遊物)			●水立	
チョウトンボ	●	●		●林	
ウスバキトンボ					●水田・草地・広場

横浜京浜臨海部（赤線内）と横浜市の緑の拠点の関係

横浜京浜臨海部で捕獲されたトンボ類



横浜京浜臨海部の緑化の取組状況